

「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」

～算数科における授業の構造化を意識した学習活動の工夫～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容

(1) 算数科における「授業の構造化」を意識した学習活動の工夫について

ア学習会 算数科における「授業の構造化」を意識した授業づくり

～児童の自力解決、「学び合い」を深めるための手立て～

山梨県教育委員会義務教育課 笠井さゆり指導主事

峡東教育事務所 三森 公仁指導主事

イ学級集団づくりのためのQ-Uの分析とその結果を生かした取り組み

ウ導入部分で見通しを持たせるための工夫 「課題提示」でのスモールステップ

エ学び合いを深めるための手立て

児童の見取りと比較検討の進め方 教材研究ノートの作り方

オ思考を深めるためのノート指導と学習の振り返り

(2) 言語活動を整えるための日常的な取り組みの共有（含NIEの取り組み）

(3) NRT, 山梨県学力把握調査（3・5年）, 全国学力学習状況調査（6年）の結果の分析と課題解決のために必要な取り組みの検討・実施

(4) 全学年を通した学習規律の確立

(5) 「授業の構造化」を意識した授業案の作成・検討及び授業実践

ア研究授業

・第3学年 算数科 「かけ算の筆算」 授業者 笹本 愛 教諭

研究会 指導助言 山梨県教育委員会 義務教育課 小池 孝二 主幹指導主事

・第5学年 算数科 「面積の求め方を考えよう」

授業者 田邊 珠紀 教諭

研究会 指導助言 甲州市教育委員会

那須 丈彦 指導主事

イ授業実践

・第4学年 音楽科 「こころのうた」 授業者 駒田 覚 教諭

・ひまわり学級 算数科 「ひきざん」 授業者 依田 史 教諭

・第1学年 算数科 「ひきざん」 授業者 加藤 友子 教諭

・第6学年 算数科 「順序よく整理して調べよう」 授業者 中根 淳 教諭

・第2学年 算数科 「新しい計算を考えよう」 授業者 小林千恵美 教諭

・第4学年 算数科 「小数のしくみを調べよう」 授業者 山縣 重人 教諭

・第3学年 道徳 「いのちのアサガオ」 授業者 笹本 愛 教諭

II 成果と課題

「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」を主題とする研究も3年目となった。

今まで積み上げてきた実践をもとに、算数科での授業の構造化を意識した授業づくりをさらに進めてきた。具体的には、昨年度までの「スモールステップの導入」「授業での児童の理解度の把握」「ノート指導」等を意識して学習活動をつくっていくことと、「学び合い」を充実させるための工夫を研究することを中心に取り組んだ。

研究を進める中で、初年度から取り組んできた「課題提示」での研究に加えて、「自力解決」を行う児童の様子をどう見取り、「学び合い」にそれをどう生かすと学習のより深い理解につながるのかを話し合うことが多くなった。このことが今年度、授業の構造化を、より広く深く考える視点となった。学習会や研究会では、授業の具体的な場面をもとにしたり、児童の活動を想定したり、自身の経験に基づいたりした意見が常に交わされ、活発であった。また、毎日の他教科の授業においても、構造化を基本に教材研究をすることが多くなった。

児童の学習意欲については、今年度もNRTや学力把握調査の算数の結果分析を行い、各学年が課題を明らかにして研究を行ったり、NRTアシストシートを利用して学習を行ったりして、児童に「できる」「わかる」ことを味わわせ、その向上をめざした。10月のQ-U検査の結果からは、全ての学級において児童の学習意欲の数値が全国平均と同じか上回っていることが分かった。しかし、維持することはできているが、高学年になるとやや下がり気味になるので、その点を意識し、改善を目指したい。また、学校生活アンケートにおいても、児童の学習に対する意欲が昨年度と同様に高く、学習意欲に関わる3項目について「本当にそう。」「だいたいそう。」を合わせると、どれも90%以上になっている。

児童の学力については、今年度も各学年で行っている市販テストの2学期の学習到達度とテストに明記されている目標点を比較することによって検証した。ほとんどの学年で学習到達度が目標点を超えており、平均点は昨年度より1点以上高くなった。多くの児童が、「できる」「わかる」ことを味わっている。

教職員の研究への取り組み方、児童の学習意欲、学習理解の点から考えると、昨年度との比較から研究の積み重ねが分かる。継続した研究主題、副主題は適切であったといえる。

研究内容については、授業実践に研究の重きを置き、初任者から経験豊かな教員までが、学習会で学んだことを生かして教材研究を行い、授業を实践、観察し合ったことで、互いの力量の向上が図られた。研究時間の短さや時期の設定など課題はあるが、今後も学級を開き合う、学び合う教職員集団でありたい。

NRTや学力把握調査や全国学力量学習状況調査については、結果を各学年で分析をし、対応した。しかし、課題点を共有化し、単元の系統性について理解しながら学校全体で取り組めるようにするためには、それが学年のどこにつながっているのか話し合う必要があった。来年度はその機会を作りたい。

III 成果物

- 1 研究授業の指導案2点 第3学年算数科学習指導案、第5学年 算数科学習指導案
- 2 一人一実践の指導案6点
- 3 研究授業、実践授業で使用した教具、ワークシート

(研究主任 山縣重人)